

# ② 鳥取県人口低密度地域を対象とした、新たな仕組みを用いた住民モビリティ支援システムの構築と実装

## メンバー

**実施者**：中央大学 研究開発機構 秋山研究室  
**連携団体**：鳥取県、日南町、琴浦町、八千代エンジニアリング（株）、（株）未来シェア

## 活動目的

鳥取県日南町、琴浦町を対象として、①交通システム、②情報・決済、③財源・制度、④地域体制といった**総合的な視点による交通改善手法を構築**し、中山間地域や人口低密度地域における新たなモビリティ支援のあり方を提案する。全町、県下に取り組みを拡大していく。（令和1、2年度の狙い）

上記4つの総合的視点（①交通システム、②情報・決済、③財源・制度、④地域体制）の仕組みを目指す中で、地方のモビリティ構築には、**地域交通の経営と運行インフラ**に重点を置く対応の必要性を注視し、**持続的な交通経営（運営会社、運行会社）の仕組み構築**を目指していく。（3年目の狙い）

**2町・地区を対象として実施**  
**対象地域**：鳥取県琴浦町安田・成美地区  
**人口**：1,342人  
**対象地域**：鳥取県日南町福栄地区  
**人口**：477人



## 取り組み内容

**キーワード**：【共通】IT活用（予約・配車・運行）【琴浦町】住民ドライバー／共助型交通／事業者協力型【日南町】デマンド交通／運行・運営・組織化

- 【琴浦町】住民ドライバーによる助け合い交通（共助型交通）**
1. 地域調査：住民共助型による交通の可能性、交通事業者の協力体制確保の可能性が明らかになった。
  2. 住民ドライバー共助型交通の実施：住民ドライバー10名、交通事業者の協力、利用登録者65人
- 【日南町】福栄地区デマンド型交通の実施（日中のドアツードア型交通）**
1. 地域調査：日中のデマンド化の利用可能性、交通事業者の運行協力の可能性が明らかになった。
  2. 日中のデマンド型交通の実施：交通事業者の運行協力、予約配車システム導入、利用登録者182人

## 2020年度の活動実績

- 【琴浦町】住民ドライバーによる助け合い交通（共助型交通）**
- ・登録・利用：登録者数65人、利用者数157人利用（11、12月の2か月間）
  - ・利用効果：対象路線の利用者数増加 1人未満／日→2.9人／日に増加（過年度同月比4～5倍）
- 【日南町】福栄地区デマンド型交通の実施（日中のドアツードア型交通）**
- ・登録・利用：登録者数182人（集落人口の40%）、利用者数226人利用（11、12月の2か月間）
  - ・利用効果：対象路線の利用者数はコロナ禍の中、11月増加（同月比105%）、12月減少（同月比72%）



## 取り組みが地域に与えた影響

- 【琴浦町】住民ドライバーによる助け合い交通（交通事業者によるサービス提供困難地域による共助型交通と事業者協力）**
- ・住民ヒアリング：203人直接聞き取り ・地域勉強会：7回／住民ドライバー説明会5回、登録者説明会1回、意見交換会1回
  - ・住民ドライバー：住民によるボランティアドライバー10人参画（2か月間の実験協力）
  - ・交通事業者協力：田中商店が予約配車サービスを担い、運行を住民が担った
- 【日南町】福栄地区デマンド型交通の実施（朝夕の路線型交通と差別化を図り、日中のドアツードア型交通化）**
- ・町の会議運営：交通会議等実施、報告 ・住民ヒアリング：117人の町民に直接聞き取り
  - ・地域の勉強会：14回（累計） 住民説明会、予約システム説明会等（延べ105人参加）
  - ・交通事業者協力：今後の運行、運営に関する組織化の議論をスタート（町の交通体系、運営・運行体制の再構築）

## 取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

地域交通の運営（経営）と運行（供給）のインフラ構築、仕組みづくりがシステムのMaaS議論の前に必要となる。

## 専門家コメント\_福島大学

- ・地方の小地域を対象とした移動手段確保の取り組み。課題を丹念に分析し、自治体や地域住民と暮らしの足の改善を図ろうとしている。地元側が「自分ごと」として取り組みを継続できるかが鍵になる。
- ・大学が行政と連携して市民との対話を重ねた好事例。まちづくりの基本である市民との対話を何度も重ね、小さく1つずつ課題を処理した点に、見習うべき事が多い。また、地域の移動を束ねる構想へ繋げている点は、モニタリングが必要な視点。